

大豆の生産状況及び取組方針について

資料2-1

	1. 各県における大豆の需要・課題	2. 大豆の生産状況・目標					3. 1及び2を踏まえた課題解決に向けた取組や今後の推進方針	4. 令和6・7年度大豆において講じた技術対策（予定含む）		5. 県・全農における取組支援	6. 他県、実需者、研究機関等に対し意見交換で聞きたい・話し合いたい・要望したいこと
		県全体／主な品種	令和6年度	令和7年度 収穫量と単収は見込みについてご記入ください	令和〇年度 県で目標設定している年度についてご記入ください	生産における課題		主な生育ステージ	講じた技術		
新潟県	①大豆の用途 豆腐、豆腐加工品（油揚げ等）、納豆 等 ②大豆の主な取引先 （県内）（有）こなかわ様 等 （県外）（株）アサヒコ様（埼玉県）、 タカノフーズ(株)様（茨城県）、 相模屋食料(株)様（群馬県） 等 ※卸売業者を経由して販売 ③実需者から求められる品質・量のニーズ 品質：高位安定化 量：需要量の安定供給 ④需要にかかる課題 青立ち株（莢先熟）、高温干ばつ害の発生による単収低下	県全体 作付面積(ha) 収穫量(t) 単収(kg/10a) 里のほほえみ 作付面積(ha) 収穫量(t) 単収(kg/10a) エンレイ 作付面積(ha) 収穫量(t) 単収(kg/10a) ※品種ごとの作付面積は推計。収穫量は検査数量。	4,230 ha 6,850 t 162 kg/10a 2,510 ha 3,842 t － kg/10a 1,569 ha 2,189 t － kg/10a ※品種ごとの作付面積は推計。収穫量は検査数量。	－	令和14年度 7,210 ha 15,862 t 220 kg/10a ・団地化、ブロックローテーションの推進 ・しわ粒の発生抑制 ・高温干ばつ害への対応 ・青立ち株（莢先熟）の発生抑制	【令和7年度推進項目】 1 高品質安定生産のための栽培環境の整備 2 湿害と雑草害の回避による生育量の確保 3 夏期の土壌乾燥防止による水分ストレスの軽減 4 土壌改善と地力低下防止、後期栄養の確保による登熟の向上 5 病害虫防除の徹底 6 適期収穫と汚損粒発生防止による品質向上	播種前 播種時 栄養成長期 開花期 子実肥大期 収穫期 随時	明渠・補助暗渠等による排水対策 石灰質資材の施用による酸度矯正 有機資材等の施用による地力増進 砕土率の確保、畝立て播種の推進 中耕・培土の適期実施 乾燥時の暗渠閉栓、畝間かん水等 基幹防除（紫斑病・マメシंकイガ）の適期実施 黄葉期の把握による適期収穫の徹底 発生状況に対応した適期・適正な病害虫等）、雑草防除	新潟県農林水産業総合振興事業 （大豆・麦・そば生産振興メニュー） 予算：64,947千円の内数 内容：大豆・そば・麦の生産のために必要な施設・リース用機械の整備 ①施設整備（補助） ・一般地域：3,000～50,000千円（4.5/10以内） ・中山間地域：1,000～50,000千円（5/10以内） ②機械整備（リース） ・一般地域：1,000～30,000千円（3/10以内） ・中山間地域：1,000～30,000千円（1/3以内）	－	
富山県	①大豆の主な用途 豆腐、豆乳、納豆 等 ②大豆の主な取引先 ・株式会社マルツネ 等 ・マルサンアイ株式会社 等 ※生産量の大半は卸へ出荷。記載した取引先は、卸からの販売先や直接集荷団体から出荷した業者を記載。 ③実需者から求められる品質・量のニーズ ・豆腐等加工用途に応じた加工適性（たんばく質やリン、イソフラボンの含有量 など） ・安定した量の供給 ・異物混入の防止 ④需要にかかる課題 ・実需者の求める量・品質の安定供給	主な品種 ・えんれいのそら ・シュウレイ ・オオツル	作付面積：4,550ha 収穫量：4,870 t 単収：107kg/10a	作付面積：4,134ha	作付面積：4,900ha 単収：200kg/10a ※目標年度は定めていない。 ・実需者の要望量を供給するための生産拡大 ・適期作業のための作業効率の向上 ・収量・品質の高位安定化のための基本技術の徹底 ・青立ちの発生防止 ・病虫害の発生、特に大豆カメムシ類による被害粒の増加傾向 ・開花期頃からの高温・少雨による小粒化 ・地力の減耗 ・高齢化等で担い手へ農地が集積し、経営体あたりの経営面積が増加している。そのため、水稻の移植時期の長期化により大豆作業全般に遅れが見られる。	・県米作改良対策本部からの管理情報や指導文書の発出、各農林振興センターにて地域に応じた栽培管理指導 ・生産推進に向けた生産体制のための国事業活用への推進・支援 ・土づくりの推進	播種前 播種期 播種後～開花期前 開花期 収穫期（予定）	・土づくり （土壌改良資材や有機物の施用） ・排水対策の徹底 ・適正な播種作業の徹底 （時期、播種量、播種深度等） ・適正基肥量の施用 ・適期培土の確実な実施 ・草種や発生状況に応じた雑草対策 ・開花期頃からの莢数確保のための畦間かん水の実施 ・適期の病害虫防除の実施 ・適期収穫 ・汚損粒発生防止のための雑草等の除去 ・適正な刈り取り高さと作業速度の順守	・高生産性大豆生産運動事業 予算額 461千円 技術実証のための実証ほの設置等	・各県における、近年の高温条件下における、収量・品質の高位安定化に向けた技術対策について。特に、全国的に大豆単収が低迷する中、新潟県はR6統計収量167kg/10aと高い水準を維持している。 ・各県で実施中の「そらしシリーズ」の試験状況や、実需者の意見等ありましたら教えてください。	
石川県	①大豆の用途 豆腐、納豆、みそ、豆乳 ②大豆の主な取引 ゼントウ ③実需者から求められる品質・量のニーズ 品質・収量の安定化および向上 ④需要にかかる課題 価格の安定化	県全体 作付面積(ha) 収穫量(t) 単収(kg/10a) 里のほほえみ 作付面積(ha) 検査数量(t) 単収(kg/10a) エンレイ 作付面積(ha) 検査数量(t) 単収(kg/10a) ※検査数量はR7.1.31時点	1,650 ha 1,680 t 102 kg/10a 1,414 ha 1,416 t － 136 ha 33 t － ※検査数量はR7.1.31時点	現在集計中	令和9年度 1,900 ha 3,800 t 200 kg/10a ・病虫害や雑草による被害（カメムシ、葉焼病等） ・青立ちやしわ粒の発生	・排水対策の徹底 ・土壌分析に基づいた土づくり ・開花期の畝間かん水 ・病虫害防除の徹底	播種前 開花期 成熟期	・土づくり （堆肥施用、前作緑肥作付） ・排水対策の徹底 ・畝立て同時播種機の利用 ・殺虫剤の播種時処理 ・中耕培土（開花期まで） ・干ばつ時の畝間灌水 ・適期収穫	無		
福井県	①大豆の用途（豆腐、納豆、・・・など） ・「里のほほえみ」はタンパク含有量が高く、豆腐・豆乳業界での使用が高い ②大豆の主な取引先 ・全国農協食品（株）等 ③実需者から求められる品質・量のニーズ ・安定した生産体制の構築の上で、「品質の均一化」及び「安定供給」 ④需要にかかる課題 ・国産比率を今後高める為に、新たな用途での需要が見込まれる事から、高品質な大豆の栽培を推進し安定供給及び消費拡大に努める	県全体 （農水省統計値） 作付面積(ha) 収穫量(t) 単収(kg/10a) 里のほほえみ （県調べ※） 作付面積(ha) 収穫量(t) 単収(kg/10a) エンレイ （県調べ※） 作付面積(ha) 収穫量(t) 単収(kg/10a) ※検査実績からの計算値	1,850ha 4,192t 104kg/10a 1,700ha 1,800t 106kg/10a 150ha 120t 80kg/10a	集計中	令和7年度 1,900ha 4,180t 220kg/10a （令和7年度 大豆振興方針より） ・単収向上	・収量向上のための基本技術の徹底の総点検（栽培日誌の確認等）	播種前 播種時 本葉展開期 開花期～ 子実肥大期 全般（雑草・病虫害対策）	排水効果の高い排水対策の実施 土づくり資材の施用 畝立て同時播種技術の導入 中耕培土の適期実施 除草剤の適期散布による除草の徹底 夏季少雨期における畝間かん水の実施 燐化アサガオ対応マニュアルに則った畦畔管理の対応を徹底 葉焼病の防除・黒根腐病への対応	・県農業試験場にて、奨励品種決定試験を実施中（特に、収量、熟期を重視）		